

# 総務委員会行政視察報告書

## 1 視察期間

平成29年8月7日 1日間

## 2 視察都市

(1) 神奈川県茅ヶ崎市

## 3 参加者

高田正人委員長、芦川和美副委員長、小池和広委員、鈴木正人委員、永田隆幸委員、  
加藤文重委員、松野正比呂委員、鈴木喜文委員、根津康広委員  
随員 神谷英雄主査、平野貴章主任

## 4 視察事項

- (1) 市の概況について
- (2) 地域コミュニティについて

## 5 考察

次のとおり

# I 茅ヶ崎市 人口：239,891人・面積35.70㎢（平成29年4月1日現在）

## 1 地域コミュニティについて

### (1) 概要

茅ヶ崎市では、各地区に自分の地域をより良くする自由な話し合いの場として、新たな地域コミュニティ「まちぢから協議会」を設立し、さまざまな取り組みを行っている。

取り組みを進める背景には、社会経済状況の変化や少子高齢化、地域への帰属意識の低下、地域課題の多様化があった。自治会加入率の低下や役員の高齢化、担い手不足等、多くの課題を抱える中で、今後も地域の「ちから」を維持・発展させていくためには、地域が一体となり、さまざまな課題について話し合い、解決に向けた取り組みを進めていく必要があった。20年度から庁内で新たな地域コミュニティの取り組みに関する調査研究を行ない、24年度にはモデル事業に取り組む地区を募集。25年度はモデル地区への支援を行い、28年度はこの取り組みを支援するための条例を施行した。茅ヶ崎市地域コミュニティの認定等に関する条例は、一定の基準を満たすコミュニティを市長が認定し、地域で公益増進するための活動に助成金を交付している。27年度までは協議の場（まちぢから協議会）を通じたコミュニティの基盤づくりを行い、地域の情報・課題の共有等を図り、28年度からは地域課題解決の提案・実施、市に対する要望を行った。また、「まちづくり提案箱」を地域集会施設に設置し、意見を「まちぢから協議会」の取り組みに活用している。取り組み事例として、子どもや若者、ファミリーが参加する防災訓練、地域課題や地域の将来像におけるアンケートの実施、お子さん同伴サロン、子育ての悩み相談、地域を知るまち歩き、学習支援と夕食支援等を行っている。

### 【考察】

地域課題は、本市も茅ヶ崎市も共通である。地域コミュニティの活性化が、市民の安全・安心と住みよいまちづくりにつながる。「まちぢから協議会」は、地域内の各種団体や市民が参加する話し合いの場であり、条例を施行して取り組みを支援していることがよい。自治会加入率の低下や役員の高齢化、担い手不足等が課題であるが、年齢や性別、職業、国籍、障害の有無に関係なく多様な考え、意見を取り入れて実施していくことが大切である。

「まちぢから協議会」は、「まちづくり提案箱」を地域集会施設に設置し、市民の提案を取り入れた事業を実践しており評価できる。市民が、身近な課題を他人事ではなく、自分のこととして捉えてもらう環境づくり、組織づくり、人づくりが大切だと感じた。